



▲紹介される山口弁を「それは使ってる」「聞いたことはあるが」と一つひとつうなずきながら聞き入る参加者。

“山口弁” 講演会

12月3日、厚狭図書館で山口弁についての講演会が開催されました。講師の森川信夫さんは、防府市立図書館副館長で山口県方言研究家。「胃がしわる(=胃が痛い)」「すがる(=もたせかける)」など例を挙げながら、「方言はかつて都で使われていた言葉が周辺部に伝わって定着したもの。山口弁ももとは雅な言葉なので、堂々と使ってくださいね。」と、ぶちおもしろおかしく山口弁を紹介してくれたっちゃ。



▲病院職員もサンタやトナカイに扮して、「ジングルベル」や「きらきら星」の曲を披露。

クリスマスコンサート

12月14日、小野田市民病院で「クリスマスコンサート」が行われました。これは、利用者^{いりやう}に癒しの時間を提供しようと、同病院サービス向上委員会が企画したものです。会場には飾り付けられたツリーが置かれ、フルート演奏グループ「ピアニッシモ」が澄んだ音色^{ふんいき}を響かせて雰囲気^{きふい}を盛り上げると、西福寺保育園児もサンタの衣装をまもって歌をプレゼント。聞き入る患者さんたちは、ひと足早くクリスマス気分を楽しみました。



▲もちまきが始めると、会場のあちらこちらから「こっちこっち」と歓声があがりました。

農林水産まつり

12月4日、JA山口宇部厚狭支所で「第32回農林水産まつり」が開催されました。当日は、あいにくの悪天候にもかかわらず多くの人々が来場し、農産物などの品評会やふれあいもちまき大会、新米などが当たる抽選会^{しゅんさいわくせい}が行われた旬菜感星フェスタ、寝太郎ぞうすいの販売、各種バザーなど、様々なイベントを楽しみました。



▲交代で実験装置のハンドルを回し、水槽内の模型の様子をじっと見守る有帆小学校の児童たち。

有帆小防災授業

12月13日、有帆小学校で山口大学工学部の山本哲朗教授による防災授業が行われました。授業では、地震の仕組みなどが説明された後、実験装置を用いて地盤の液状化現象が再現されました。「装置のハンドルを回して水槽を揺らしていると、突然、模型のビルが砂と水に飲み込まれてしまった。」と海上弘行君(5年)はこの不思議な現象に驚いた様子。実験で水没した模型を前に、児童たちは改めて災害の恐ろしさを学びました。